

の間をわたすものなれば、橋もまた彼岸此岸の絶間をわたす物なる故に、ハシとは名づけいひたりけん、棧道をカケハシといふも、また此義に異なるべからず。

〔古事記傳^四〕柱と云名義は、波斯は間なるべし。〇古史傳云、夏ハ添間を波斯と云例多し、間人又萬葉の歌に相競端爾と云るも、端は借字にて間にの意なり、又木にもあらず草にもあらず竹のよの波斯に吾身はなりぬべらなり、と云歌も、竹を木と草との間と云るなり、かくて柱は屋と地との間にわたせばなり、又橋も同意か、此岸と彼岸との間にわたせばなり、又今俗言に妻どひの最初に、言を通はしそむる媒を、波斯加氣と云も、橋懸の意にて、右の柱の事にもおのづから通へり、又箸と云名も、此物は必二相對ひより合て其用をなす物なれば、夫婦の意に似たり、又事の初を端といふも、此の御柱廻りの事に由あるなり。

初見

〔日本書紀^{神代}〕伊弉諾尊伊弉册尊立於天浮橋之上、共計曰、底下豈無國歟、迺以天之瓊^{瓊玉也}、矛指下而探之、是獲滄溟、其矛鋒滴瀝之潮凝成一島、名之曰磯馭虛島。

〔釋日本紀^{述義}〕私記曰、問天浮橋是何物哉、答此時雖天地開闢、洲島未成、既如浮膏之無所根係也、故謂立浮橋上耳、丹後國風土記曰、與謝郡郡家東北隅方有速石里、此里之海有長大石、前長二千二百廿九丈、廣或所九丈以下、或所十丈以上廿丈以下、先名天梯立、後名久志濱、然云者國生大神伊射奈藝命、天爲通行而梯作立、故云天梯立、神御寢坐間、伏仍怪久志備坐、故云久志備濱、此中間云久志、自此東海云與謝海、西海云阿蘇海、是二面海、雜魚具善住、但蛤乏少、播磨國風土記曰、賀古郡益氣里有石橋、傳云、上古之時、此橋至天、八十人乘、上下往來、故曰八十橋、案之天浮橋者、天橋立是也。

〔日本書紀纂疏^{上二}〕天浮橋指空虛而言、橋水梁也、斫木爲橋、架於水上、濟不通、以利天下之人、蓋陰陽往來、而造化萬物、爲利於人也、舊說云、天浮橋、今丹後州天橋立是也、二神立於其上、故得橋立之